



出席 停止

出席停止の目的は、学校で感染症が発生した場合に
罹患者の早期回復と**感染拡大を防止**して、
健康的な教育環境を維持することです。

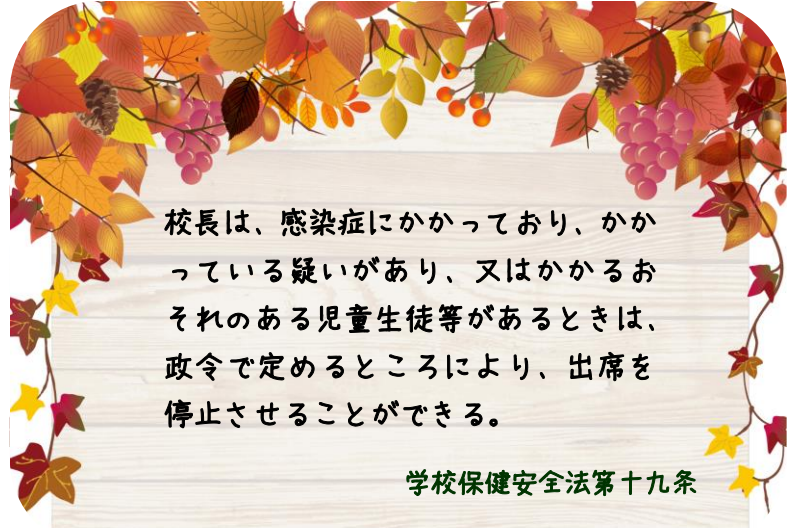
また、感染症の蔓延を防止するために、臨時休業(学校閉鎖・学年閉鎖・学級閉鎖)の予防措置を講じることもあります。

インフルエンザの出席停止期間

発症した後5日を経過し、かつ、
解熱した後2日(幼児は3日)
を経過するまで。

*「発症」は、
「発熱」を目安とする。

学校保健安全法施行規則第十八条



校長は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、政令で定めるところにより、出席を停止させることができる。

学校保健安全法第十九条

マスク着用



石けん手洗い

ワクチン接種

学校で流行するおそれのある感染症について、学校ホームページに詳しく掲載していますので、そちらもご覧ください。

自分のためにも・家族のためにも・友だちのためにも・**3年生のため**にも、感染症が疑われる症状がある場合には、登校せず、まず医療機関を受診しましょう。



インフルエンザ パンデミック の歴史



インフルエンザの歴史的な流行の記載は、紀元前 412 年のヒポクラテスらによるものとされていますが、科学的に存在が証明されたのは 1900 年頃からです。

日本でも、古くは平安時代にインフルエンザ流行の記載があり、江戸時代には「はやり風邪」と呼ばれていたそうです。

1918年 スペインインフルエンザ

■ 人類が遭遇した最初のパンデミック。全世界での死者数は 2,000 万人とも 4,000 万人とも言われている。日本の犠牲者は約 40 万人との推定。

スペインフルは、第一次世界大戦の最中、3 波にわたり全世界を襲ったんだ。第 1 波は 1918 年 3 月にアメリカ北西部で出現。アメリカ軍とともに欧州に渡り、西部戦線の両軍兵士に多数の死者を出して戦争の終結を早めたとも言われている。



1957年 アジアインフルエンザ

- 香港から始まり、東南アジア、日本へと感染拡大。中国南西部が発端ではないかと考えられている。
- 全世界での死者数は推定約 100~200 万人（日本の感染者は約 300 万人、死者は約 5,700 人）。

1968年 香港インフルエンザ

- 香港で爆発的に大流行。中国に源を発すると考えられている。
- 香港では6週間で 50 万人が感染。全世界での死者は 56,000 人以上。

2009年 インフルエンザ (H1N1) 2009

- メキシコで発生してパンデミックが認められた直近の新型インフルエンザ。警戒水準は最高値のフェーズ6。
- 214 の国と地域へ感染が拡大。全世界での死者数は 18,000 人以上。

